

全国市街地の変遷

昭和の記憶から次代へ

今では想像さえできないが、宮崎県は「新婚旅行のメッカ」として1974年頃にはハネムーンの人気ナンバー1の地として有名だった。

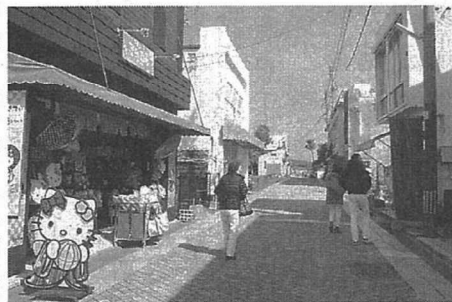
南国情緒と縁結び神社

「72年には、戦後ベビーブームに生まれた人達が結婚適齢期を迎え、この年の新婚カップルは100万組に達し、その内の4分の1が新婚旅行に宮崎を選んだ。その人数は実に57万人」（『宮崎交

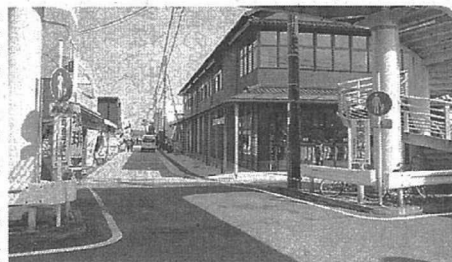
博した。バスも新婚カップルばかりで、眺めの良い窓側には新婚が座るのが当たり前だったとか。ホテルは青島地区だけでなく、市中心部の大淀川河畔にも数多くあった。

しかしながら、その後の沖縄返還や海外旅行の流行に伴い、「新婚旅行は宮崎」というイメージは消失し、市中心的なホテルは現在、マンションへと変容。ホテル跡地はまとまった土地

が、徐々に回復の兆しも見られる。観光客数も最近10年では、11年の約65万人を底に16年は約93万人と回復基調とな



④観光地新三点セットに加わった「キティショップ」 ⑤宮崎市景観賞を受賞したレストラン「青島屋」



大淀川沿いホテルはマンション街に

次世代につながる観光地へ

であり、眺めも良く、マンション適地であり、都心回帰現象に貢献しているともいえる。大淀川沿いのホテルで唯一「宮崎観光ホテル」が残っているが、「残存者利益」を謳歌している現状である。

「キティショップ」も

青島地区の落ち込みはひどく、一部のホテルは閉鎖し、門前町としてにぎわっていた参道は空き地や空き店舗が目立っている状況だ

「ガラズ」や「オルゴール」や「イペア」が言われてきたが、最近ではこれに「鬼太郎ショップ」「キティショップ」が加わったようで、青島には「キティショップ」がある。

参道正面には17年に全面改装し、宮崎市景観賞を受賞した宮交グループ運営のレストラン「青島屋」があり、また観光ホテル跡地にも地元不動産業者による「青島フィッシュ&スパ」(青島ホテル)が昨年新規オープンし、特に温泉の人気の高い。

旧青島橋ホテル跡地もIT関連会社による開発が予定されている。また、宮崎市が整備した青島参道南広場に隣接する「宮交ホテルニックガーデン青島」(県立青島亜熱帯植物園)も宮崎県によって建て替え工事が昨年完了した。

現在、宮崎市は「次世代につながる観光地『青島』」を推進しており、官民が一致協力した巻き返しの実現を期待する。

(日本不動産研究所宮崎支所、不動産鑑定士・富永伸二)

宮崎市・新婚旅行のメッカ、青島の今



④新婚旅行のメッカだった当時の青島神社界隈(写真提供「宮交ホテルディングス」) ⑥中心部、大淀川河畔のホテルはマンション街に変容中